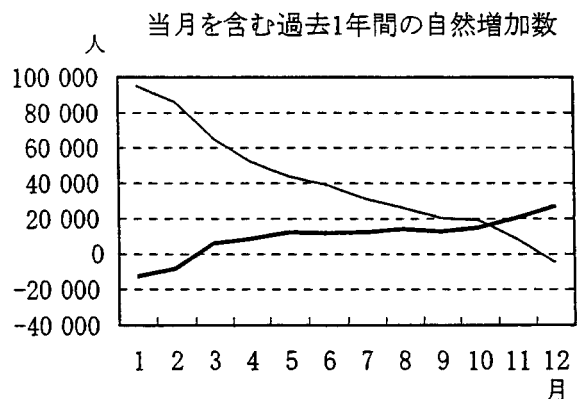
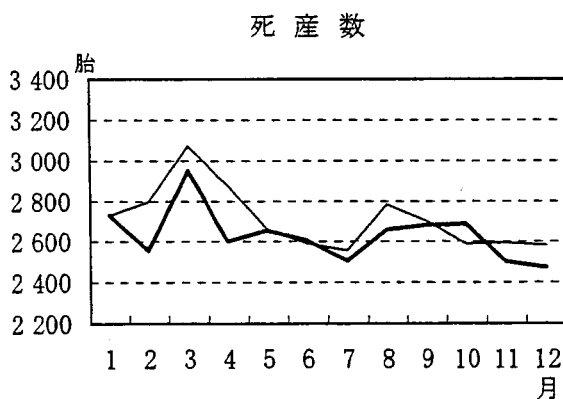
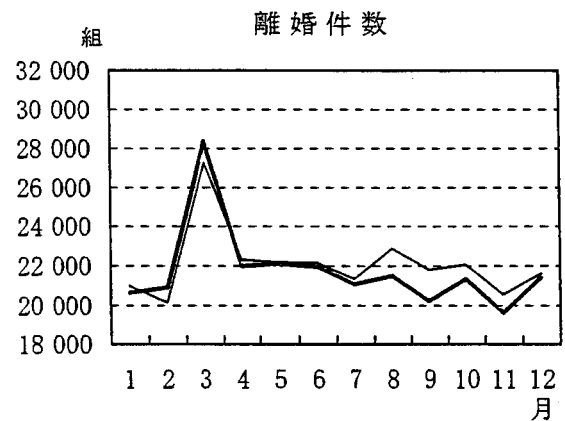
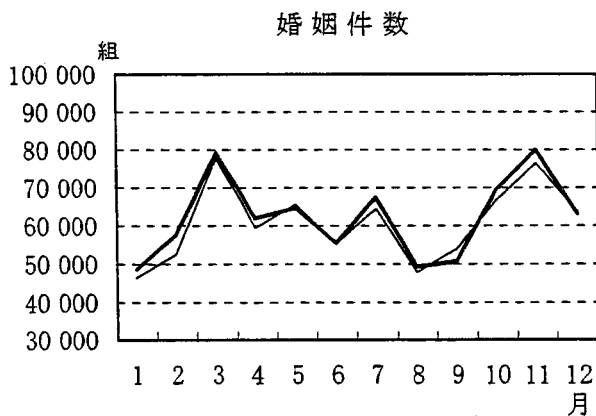
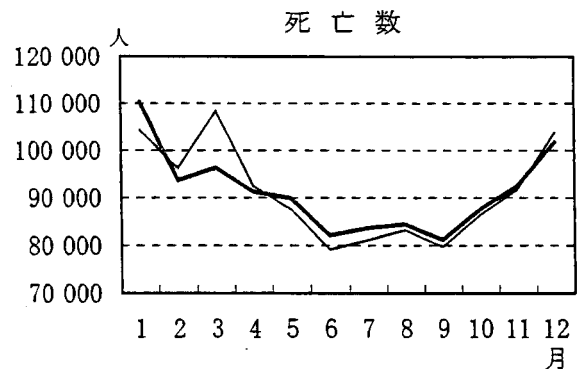
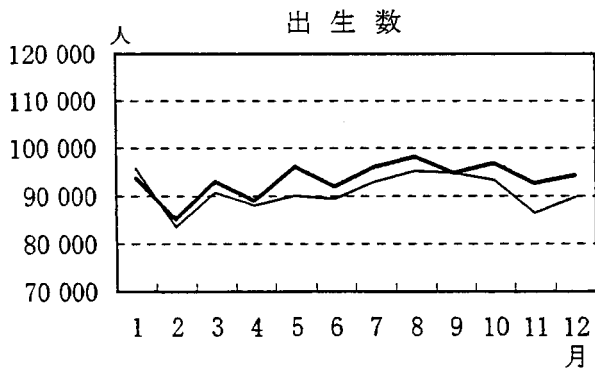


人口動態統計速報

(平成18年12月分)

人口動態統計は、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産について、各種届出書等から人口動態調査票が市区町村で作成され、これを収集し集計したものである。
 速報の数値は調査票の作成枚数であり、日本における日本人、日本における外国人、外国における日本人及び前年以前に発生した事象を含むものである。
 そのうち、日本における日本人についてまとめたものが人口動態統計月報(概数)であり、この月報(概数)に若干の修正を加えたものが年報確定数である。



※H18年1月…H17年2月～H18年1月までの1年間
 H18年2月…H17年3月～H18年2月までの1年間
 ……
 H18年12月…H18年1月～H18年12月までの1年間

(担当)
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 人口動態・保健統計課 月報調整係
 (TEL)03(5253)1111(内線 7476)

— 平成18年
 - - 平成17年

人口動態総覧、対前年比較

	実 数				年 換 算 率		
	平成18年	平成17年	差引増減	増減率(%)	平成18年	平成17年	対前年比
	12月						
出 生	94 302	89 705	4 597	5.1	8.7	8.3	105.1
死 亡	101 849	103 878	△ 2 029	△ 2.0	9.4	9.6	98.0
自然増加	△ 7 547	△ 14 173	6 626	...	△ 0.7	△ 1.3	...
死 産	2 474	2 582	△ 108	△ 4.2	25.6	28.0	91.4
婚 姻	63 174	63 931	△ 757	△ 1.2	5.8	5.9	98.8
離 婚	21 403	21 616	△ 213	△ 1.0	1.97	1.99	99.0
	1月から当月までの累計(18年1月～18年12月)						
出 生	1 122 278	1 090 237	32 041	2.9	8.8	8.5	102.9
死 亡	1 095 393	1 094 598	795	0.1	8.6	8.6	100.0
自然増加	26 885	△ 4 361	31 246	...	0.2	△ 0.0	...
死 産	31 612	32 534	△ 922	△ 2.8	27.4	29.0	94.5
婚 姻	748 017	730 167	17 850	2.4	5.9	5.7	102.4
離 婚	261 351	265 480	△ 4 129	△ 1.6	2.05	2.08	98.4
	当月を含む過去1年間(18年1月～18年12月)						
出 生	1 122 278	1090 237	32 041	2.9	8.8	8.5	102.8
死 亡	1 095 393	1094 598	795	0.1	8.6	8.6	99.9
自然増加	26 885	△ 4 361	31 246	...	0.2	△ 0.0	...
死 産	31 612	32 534	△ 922	△ 2.8	27.4	29.0	94.5
婚 姻	748 017	730 167	17 850	2.4	5.9	5.7	102.3
離 婚	261 351	265 480	△ 4 129	△ 1.6	2.04	2.08	98.3

注：前年の数値も速報値である。自然増加は、出生から死亡を減じたものである。
率計算には「人口推計月報」(総務省統計局)により、該当月の総人口(概算値)を用いた。

年換算率の計算式

当月分 出生・死亡・婚姻・離婚率 = $\frac{\text{その月の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)}}{\text{その月の人口} \times \frac{\text{その月の日数}}{\text{年間日数}}} \times 1,000$

自然増加率 = $\frac{\text{その月の出生数} - \text{その月の死亡数}}{\text{その月の人口} \times \frac{\text{その月の日数}}{\text{年間日数}}} \times 1,000$

死産率 = $\frac{\text{その月の死産数}}{\text{その月の出産(出生+死産)数}} \times 1,000$

1月分からの累計 出生・死亡・婚姻・離婚率 = $\frac{\sum_i (\text{i月の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)})}{\sum_i (\text{i月の人口} \times \frac{\text{i月の日数}}{\text{年間日数}})} \times 1,000$

自然増加率 = $\frac{\sum_i (\text{i月の出生数}) - \sum_i (\text{i月の死亡数})}{\sum_i (\text{i月の人口} \times \frac{\text{i月の日数}}{\text{年間日数}})} \times 1,000$

死産率 = $\frac{\sum_i (\text{i月の死産数})}{\sum_i (\text{i月の出産(出生+死産)数})} \times 1,000$

注： \sum_i は1月からその月までの累計である。

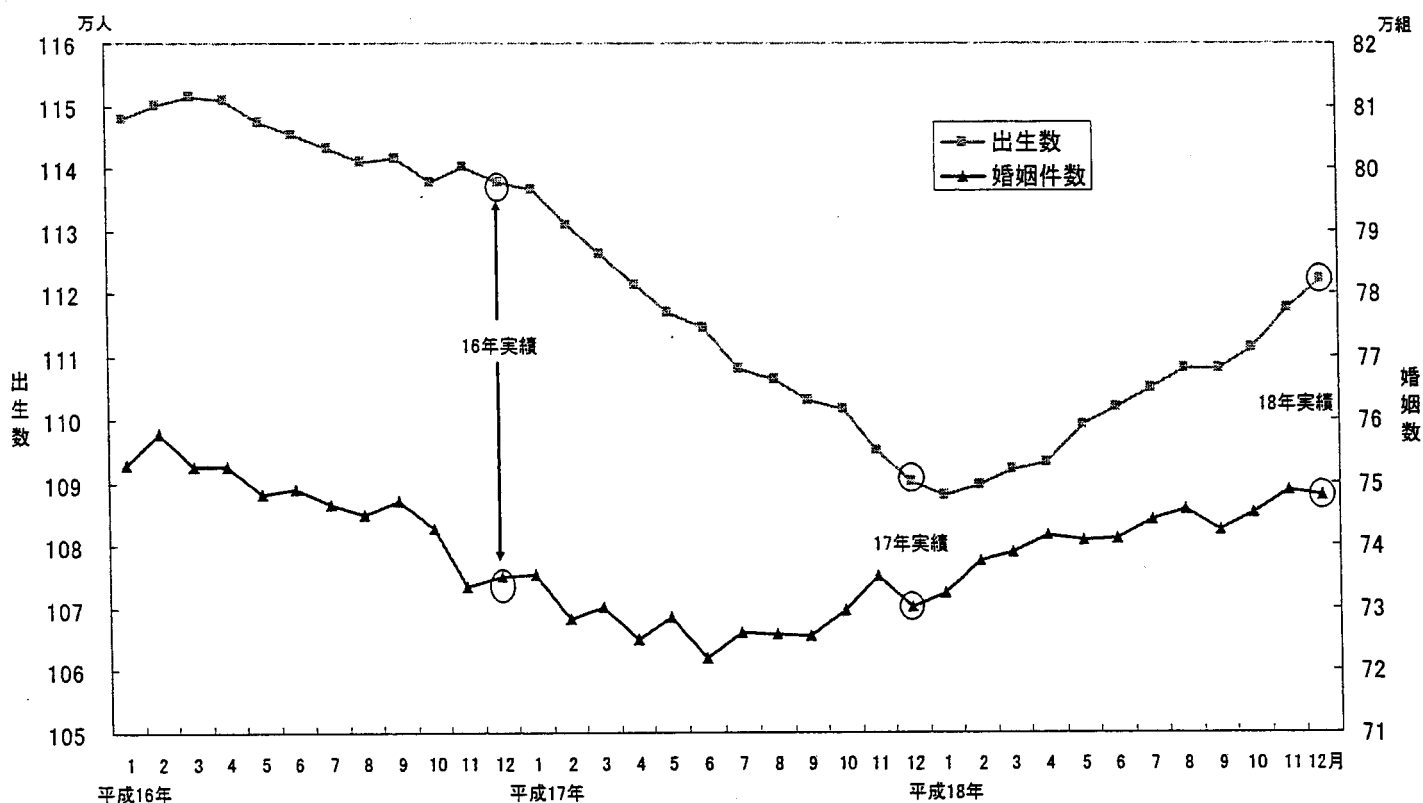
過去1年間 出生・死亡・婚姻・離婚率 = $\frac{\text{その月を含む過去1年間の件数(出生・死亡・婚姻・離婚)}}{\text{その月を含む過去1年間の中央人口}} \times 1,000$

自然増加率 = $\frac{\text{その月を含む過去1年間の出生数} - \text{その月を含む過去1年間の死亡数}}{\text{その月を含む過去1年間の中央人口}} \times 1,000$

死産率 = $\frac{\text{その月を含む過去1年間の死産数}}{\text{その月を含む過去1年間の出産(出生+死産)数}} \times 1,000$

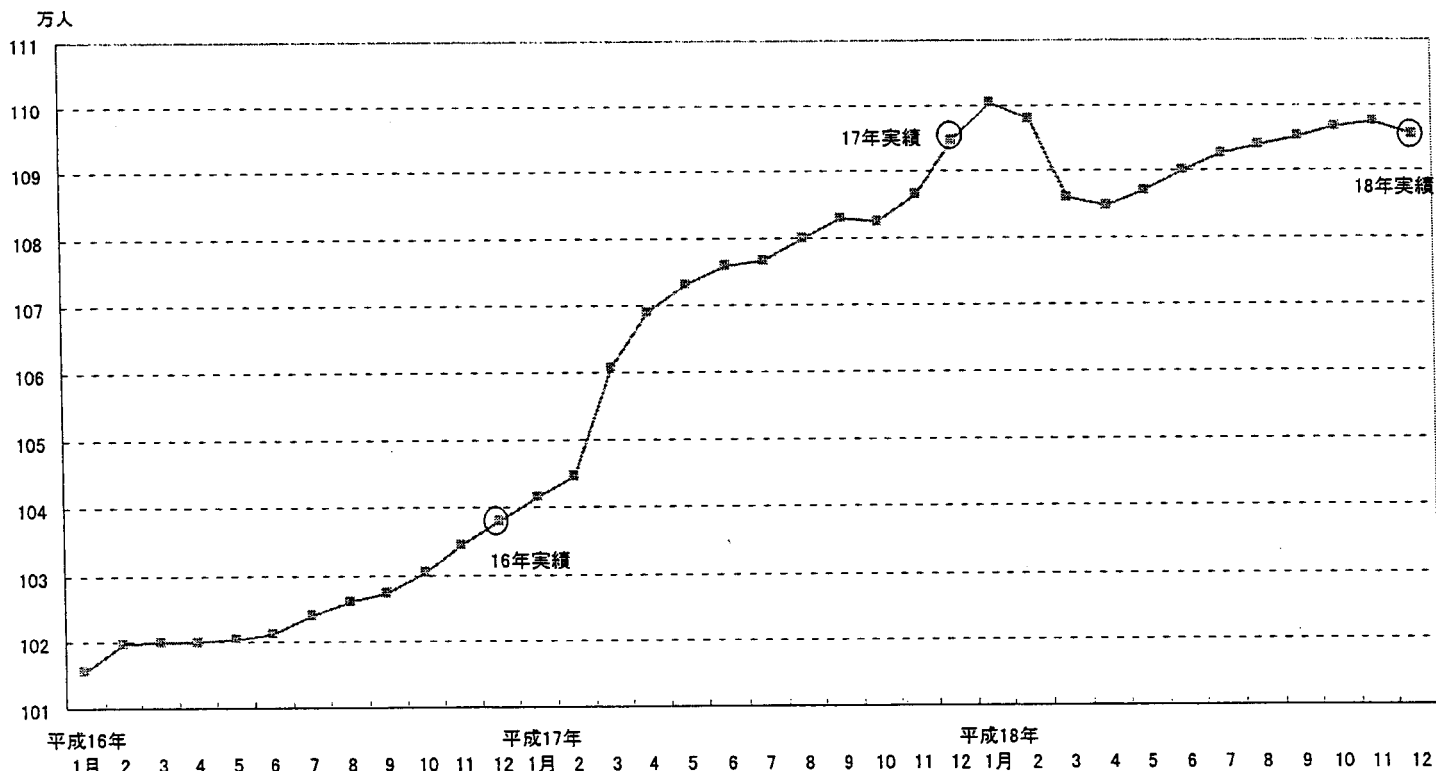
注：18.1～18.12の中央人口は、平成18年7月1日現在人口を用いた。

人口動態統計速報における当月を含む過去1年間(12ヶ月)の出生数・婚姻数の推移



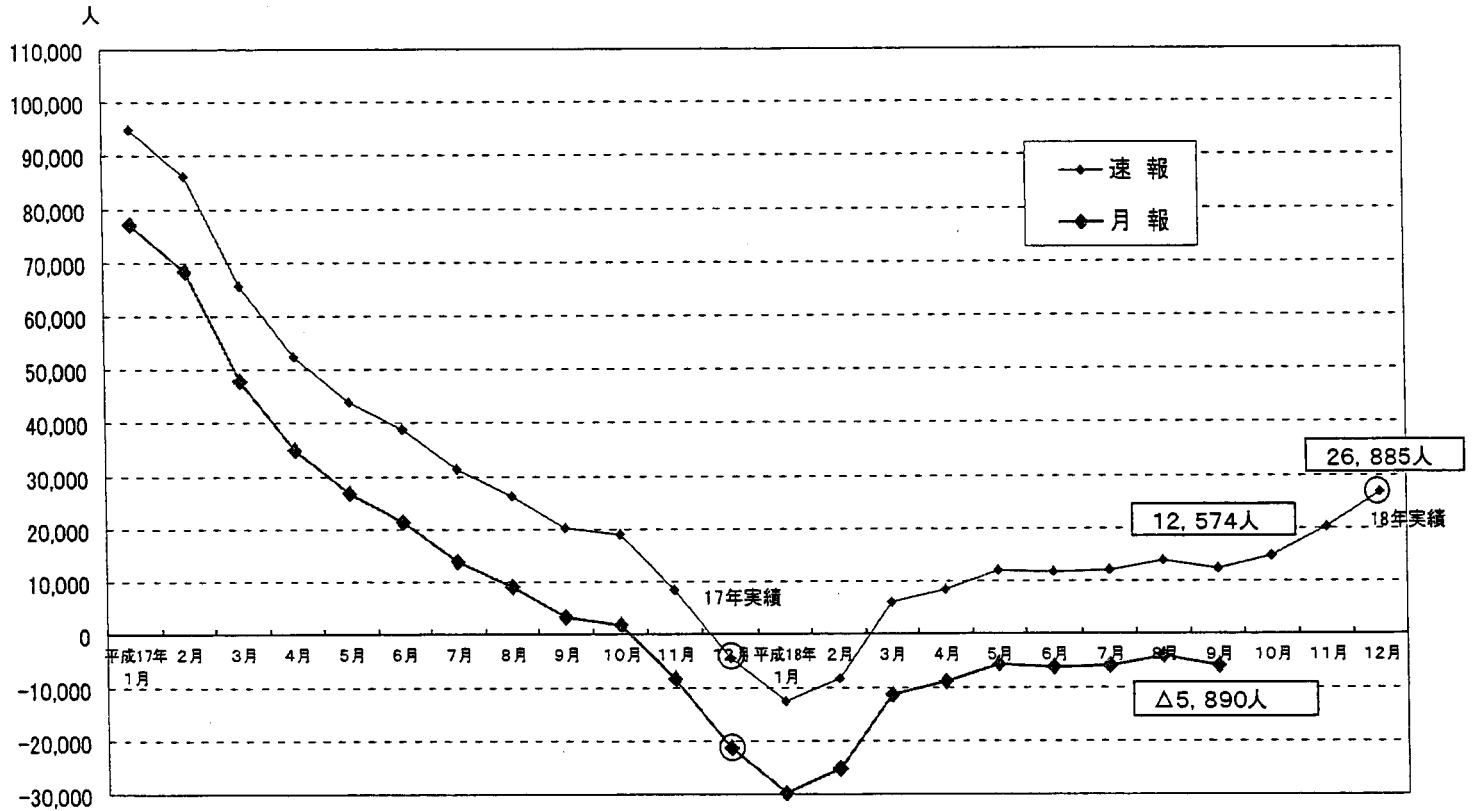
注：日本における日本人のほか、日本における外国人、外国における日本人等を含む数値である。
このため、日本における日本人にかかる分(見込み数)については、出生数約2万9千人程度、婚姻数約1万7千組程度減じて観察する必要がある。

人口動態統計速報における当月を含む過去1年間の死亡数の推移

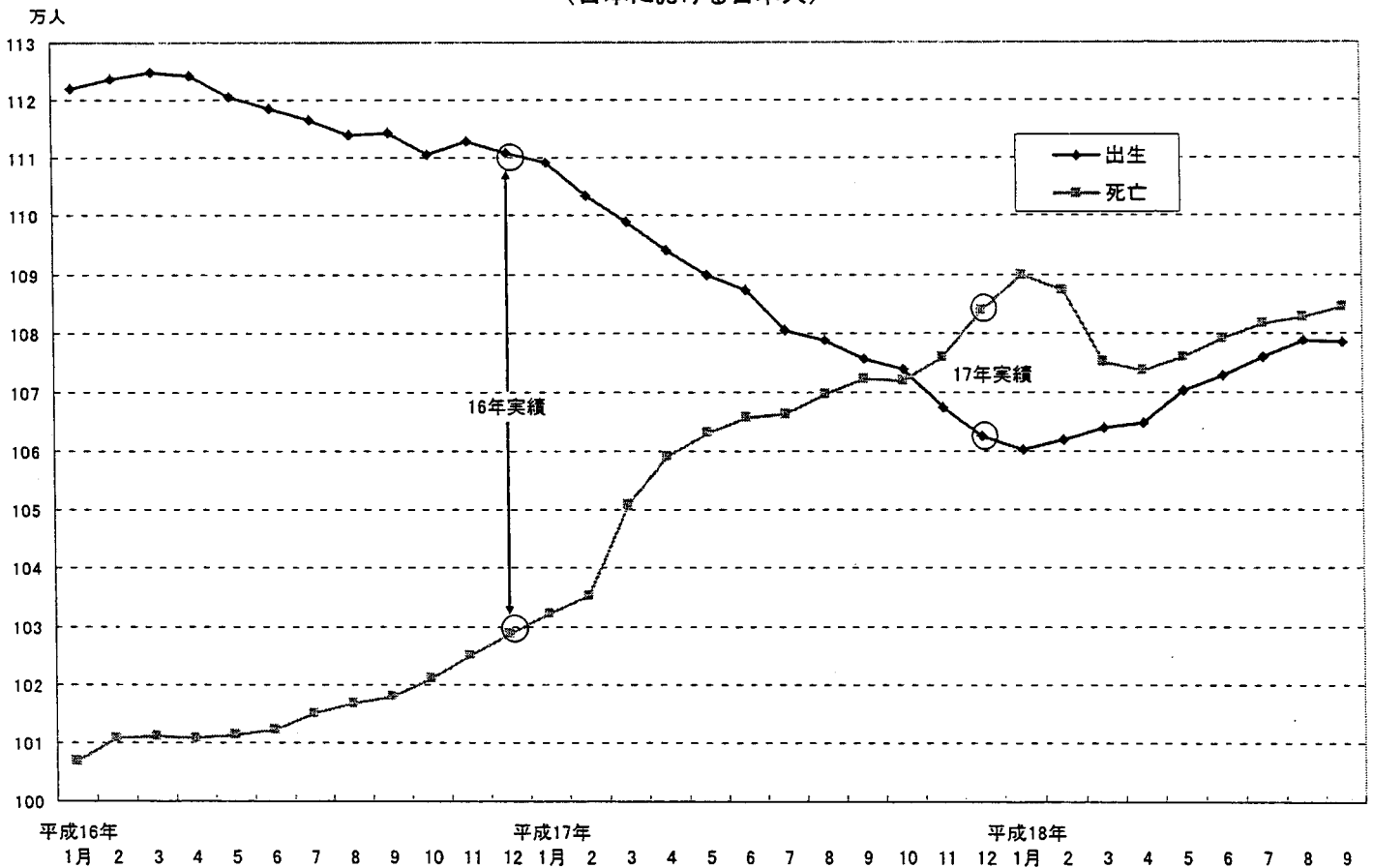


注：日本における日本人のほか、日本における外国人、外国における日本人等を含む数値である。
このため、日本における日本人にかかる分(見込み数)については、約1万1千人程度減じて観察する必要がある。

人口動態統計における「当月を含む過去1年間の自然増加数」の推移
 (月報は日本における日本人、速報は日本における外国人、外国における日本人等を含むものである。)

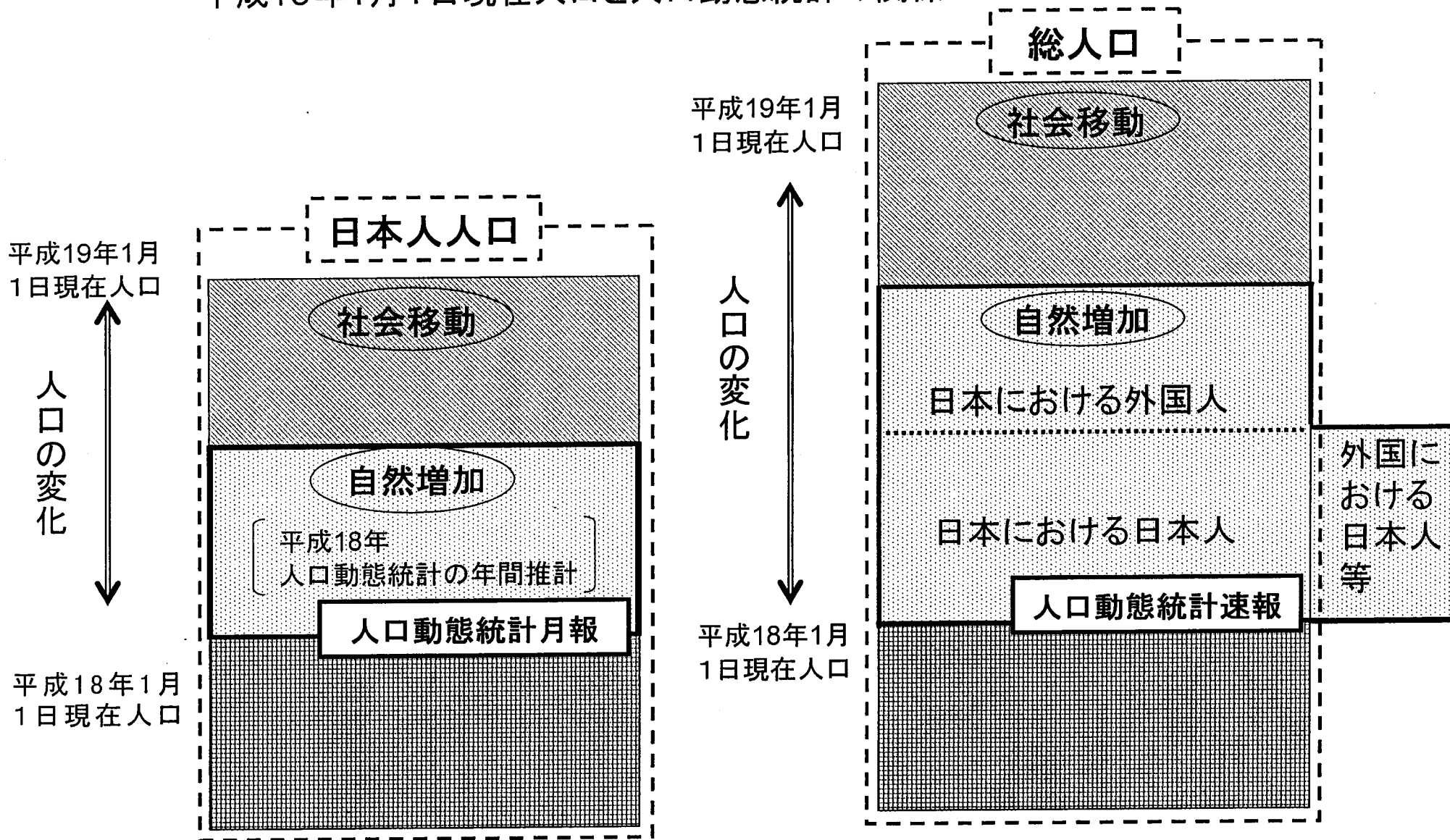


人口動態統計月報(概数)における当月を含む過去1年間の出生数・死亡数の推移
 (日本における日本人)



平成19年1月1日現在人口と人口動態統計の関係

5



出生数の動向と合計特殊出生率の動向の関係

- 出生数は次の3つの要素から計算されるため、その動向は、「合計特殊出生率」の動向のほか、「女子人口（15～49歳）」と「（15～49歳女子人口の）年齢構成の違い」の動向にもよる。

$$\text{出生数} = \text{女子人口 (15～49歳)} \times \frac{\text{(期間) 合計特殊出生率}}{35} \times \text{(15～49歳女子人口の) 年齢構成の違い}$$

↑
↑
↑

(15～49歳のどの年齢の女子の人数も同じとした場合に見込まれる出生数)
(出生数÷見込まれる出生数)

* (期間) 合計特殊出生率は15～49歳までの35歳の年齢別出生数を加えたものであるため、女子人口(15～49歳)を乗じて出生数となるよう35で除している。

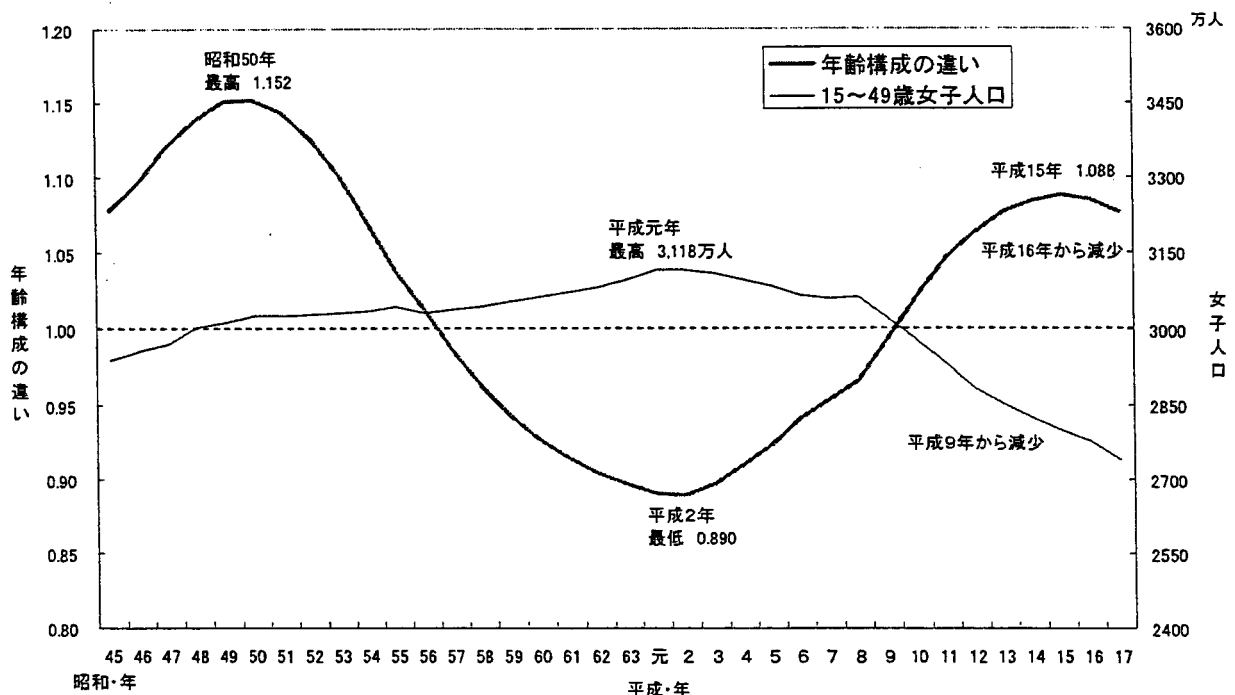
その年の女子の年齢別出生率の合計である「合計特殊出生率」は、「その年の女子人口（15～49歳）について、仮にどの年齢の女子の人数も同じとした場合のその年の出生率」である。

$$\text{出生数} = \text{女子人口 (15～49歳)} \times \frac{\text{合計特殊出生率}}{35} \times \text{年齢構成の違い (15～49歳)}$$

平成16年	111.1万人	=	2,777万人	×	$\frac{1.29}{35}$	×	1.086
	↓△4.3%		↓△1.4%		↓△2.2%		↓△0.8%
平成17年	106.3万人	=	2,738万人	×	$\frac{1.26}{35}$	×	1.078

※合計特殊出生率が変わらなかった場合、出生数は△2.1%であったと見込まれる。

「女子人口(15～49歳)」と「年齢構成の違い」の動向



○ 人口動態統計年報における出生数の動向

平成17年	平成16年	対前年増減	増減率(%)
1,062,530	1,110,721	<u>△48,191</u>	<u>△4.3</u>

※年報の数値は、日本における日本人について集計したものである。

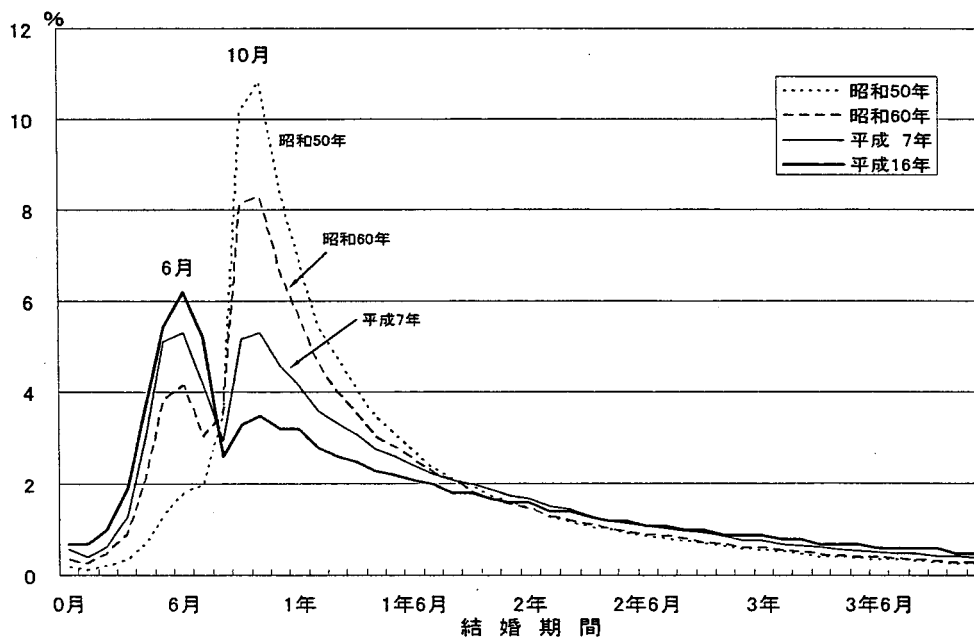
○ 年齢（5歳階級）別にみた妻の5年間初婚率（女子人口百対）の推移

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
平成14年	19.4	31.0	11.3	2.9
15	18.1	30.4	11.6	3.1
16	17.1	29.7	11.8	3.3
17	17.1	30.0	12.2	3.6
対前年差				
平成15年	△1.3	△0.6	0.4	0.2
16	△1.0	△0.7	0.1	0.2
17	△0.0	0.3	0.4	0.3

注:1) 各届出年に結婚生活に入ったもの。
 2) 5年間初婚率は各年齢階級別の初婚率を5倍したものであり、仮にその年次の初婚率で推移するとしたとき、その年齢階級の女子人口のうち「5年間で初婚となる女子人口の割合」に相当する。

○ 第1子が婚姻後約6か月程度で出生する割合が最も高い

第1子出生までの婚姻期間別に見た出生構成割合 — 昭和50・60・平成7・16年 —



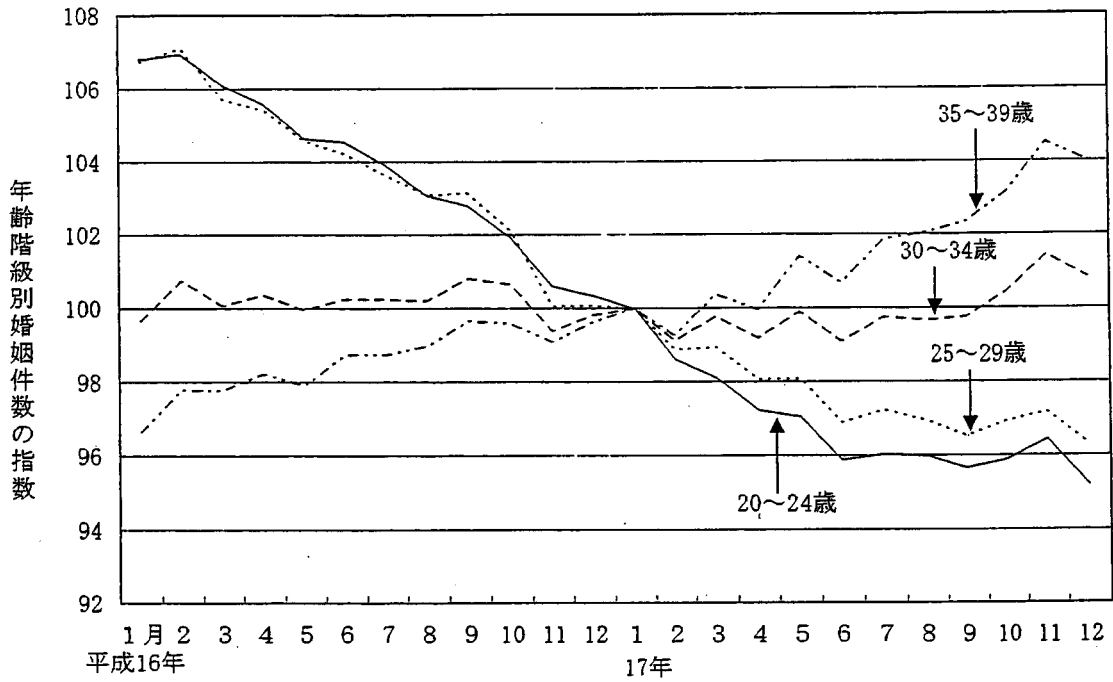
注: 1) 嫡出第1子についての数値である。
 2) 結婚期間不詳を除いた数値に対する構成割合である。
 3) 0月とは生まれた月と同居を始めた月が同じ場合である。

資料: 「平成17年度 出生に関する統計」

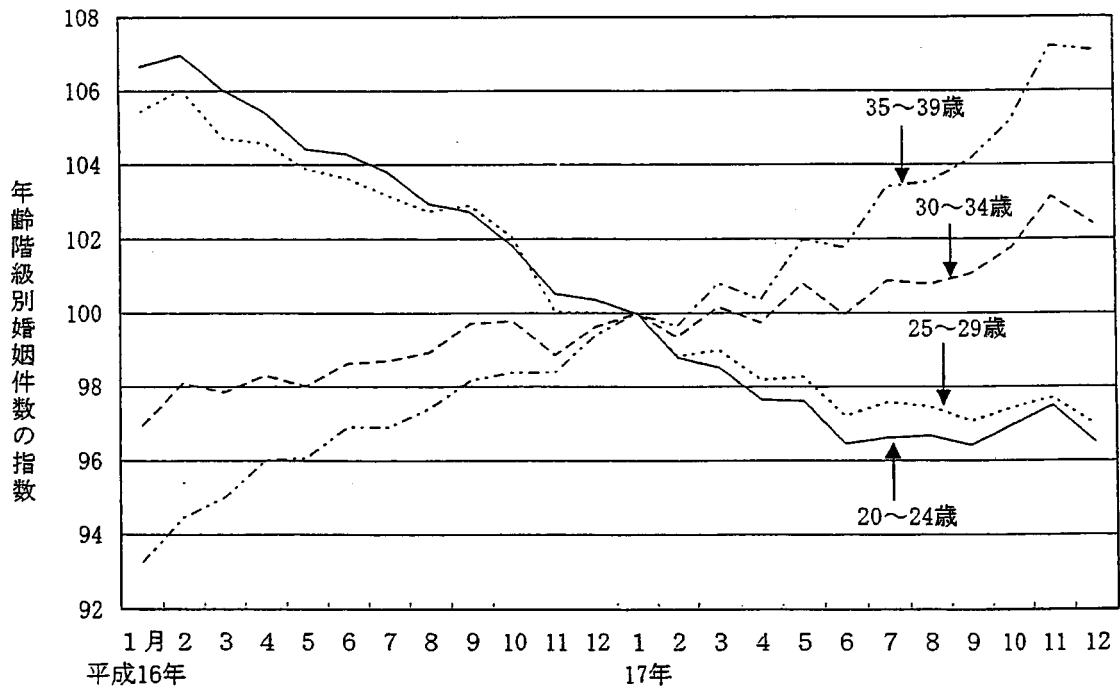
○ 低下し続けていた 20 歳代の婚姻件数が、平成 17 年 6 月以降は横ばいで推移

当月を含む過去 1 年間でみた年齢階級別婚姻件数の指数 -平成 16~17 年-

(夫)



(妻)



注：1) 平成 17 年 1 月を 100 とし計算した。

2) 例えば、「平成 16 年 1 月」は平成 15 年 2 月～16 年 1 月までの累積である。

性、仕事の有無別にみたこの3年間の結婚の状況

(単位：%)

		総数		結婚した	結婚していない
仕事の有無	男	(100.0)	100.0	12.4	87.6
	仕事あり	(85.6)	100.0	13.6	86.4
	(再掲) 正規	(57.5)	100.0	15.2	84.8
	(再掲) 非正規	(16.4)	100.0	6.3	93.7
	仕事なし	(14.3)	100.0	4.4	95.6
	女	(100.0)	100.0	16.2	83.8
	仕事あり	(87.9)	100.0	16.2	83.8
	(再掲) 正規	(52.1)	100.0	16.8	83.2
	(再掲) 非正規	(30.2)	100.0	14.9	85.1
	仕事なし	(12.1)	100.0	15.6	84.4

- 注：1) 集計対象は、第1回独身で第4回まで回答を得られている者である。
 2) 仕事の有無は、「結婚した」は結婚前の、「結婚していない」は第3回の状況で；
 3) 「結婚した」には、この3年間に、結婚した後離婚した者を含む。
 4) 「男」「女」には、仕事の有無不詳を含む。
 5) 3年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。
 資料：「平成17年第4回21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）」

妻の仕事の有無別にみたこの3年間の出生の状況

(単位：%)

	総数			子どもなし			1人			2人以上				
	総数	出生あり	出生なし	総数	第1子出生あり	出生なし	総数	第2子出生あり	出生なし	総数	第3子以降出生あり	出生なし		
妻の仕事の有無	総数	(100.0)	100.0	26.0	74.0	100.0	33.5	66.5	100.0	45.3	54.7	100.0	10.8	89.2
	仕事あり	(57.5)	100.0	22.2	77.8	100.0	33.6	66.4	100.0	38.4	61.6	100.0	8.3	91.7
	(再掲) 正規	(18.5)	100.0	33.1	66.9	100.0	40.7	59.3	100.0	49.7	50.3	100.0	10.7	89.3
	(再掲) 非正規	(29.9)	100.0	16.3	83.7	100.0	27.7	72.3	100.0	29.8	70.2	100.0	6.3	93.7
	仕事なし	(42.4)	100.0	30.9	69.1	100.0	33.2	66.8	100.0	51.0	49.0	100.0	14.1	85.9

- 注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。ただし、妻の「出生前データ（用語の定義11参照）」が得られていない夫婦は除く。
 ① 第1回から第4回まで双方から回答を得られている夫婦
 ② 第1回に独身で第3回までの間に結婚し、結婚後第4回まで双方から回答を得られている夫婦
 2) 妻の仕事の有無は、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第3回の状況である。
 3) 「子どもなし」「1人」「2人以上」は、出生前の状況である。
 4) 3年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
 5) 総数には、妻の仕事の有無不詳を含む。
 資料：「平成17年第4回21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）」

妻の職場の育児支援制度の有無別にみたこの2年間の出生の状況

(単位：%)

		総数			子どもなし			1人			2人以上			
		総数	出生あり	出生なし	総数	第1子 出生あり	出生なし	総数	第2子 出生あり	出生なし	総数	第3子以降 出生あり	出生なし	
妻の職場の 育児休業制度の 有無	総数	(100.0)	100.0	15.0	85.0	100.0	25.2	74.8	100.0	25.2	74.8	100.0	5.0	95.0
	制度あり	(38.7)	100.0	18.8	81.2	100.0	27.0	73.0	100.0	30.9	69.1	100.0	6.5	93.5
	利用しやすい雰囲気がある	(19.0)	100.0	23.0	77.0	100.0	34.1	65.9	100.0	35.1	64.9	100.0	8.8	91.2
	利用しにくい雰囲気がある	(8.1)	100.0	18.5	81.5	100.0	27.6	72.4	100.0	33.3	66.7	100.0	2.0	98.0
	どちらとも言えない	(9.8)	100.0	13.9	86.1	100.0	19.2	80.8	100.0	22.9	77.1	100.0	5.6	94.4
	制度なし	(34.1)	100.0	11.7	88.3	100.0	21.6	78.4	100.0	21.1	78.9	100.0	3.1	96.9
	制度があるかわからない	(23.5)	100.0	13.5	86.5	100.0	22.9	77.1	100.0	22.9	77.1	100.0	6.1	93.9

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。

① 第1回から第4回まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回に独身で第3回までの間に結婚し、結婚後第4回まで双方から回答を得られている夫婦

③ 「出生あり」は出生前に、「出生なし」は第3回に妻が会社等に勤めていた夫婦で、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦

2) 育児休業制度の有無とは、利用可能な制度があるかどうかをいい、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第3回の状況である。

3) 「子どもなし」「1人」「2人以上」は、出生前の状況である。

4) 2年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5) 育児休業制度の有無の総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。

資料：「平成17年第4回21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）」

夫の家事・育児時間別にみたこの3年間の出生の状況別

(単位：%)

		総数			子どもなし			1人			2人以上			
		総数	出生あり	出生なし	総数	第1子 出生あり	出生なし	総数	第2子 出生あり	出生なし	総数	第3子以降 出生あり	出生なし	
夫の家事 休業日・ 育児時間	総数	(100.0)	100.0	26.3	73.7	100.0	34.0	66.0	100.0	45.6	54.4	100.0	10.9	89.1
	家事・育児時間なし	(8.0)	100.0	24.4	75.6	100.0	35.1	64.9	100.0	21.1	78.9	100.0	1.4	98.6
	2時間未満	(24.6)	100.0	23.8	76.2	100.0	31.1	68.9	100.0	36.1	63.9	100.0	7.8	92.2
	2～4時間未満	(19.8)	100.0	24.3	75.7	100.0	36.1	63.9	100.0	40.3	59.7	100.0	11.0	89.0
	4～6時間未満	(13.8)	100.0	28.0	72.0	100.0	50.0	50.0	100.0	44.4	55.6	100.0	14.9	85.1
	6～8時間未満	(6.7)	100.0	29.7	70.3	100.0	25.0	75.0	100.0	50.5	49.5	100.0	11.3	88.7
	8時間以上	(22.0)	100.0	29.8	70.2	100.0	66.7	33.3	100.0	56.0	44.0	100.0	13.6	86.4

注：1) 集計対象は、①または②に該当する夫婦である。ただし、妻の「出生前データ（用語の定義11参照）」が得られていない夫婦は除く。

① 第1回から第4回まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回に独身で第3回までの間に結婚し、結婚後第4回まで双方から回答を得られている夫婦

2) 夫の家事・育児時間は、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第3回の状況である。

3) 「子どもなし」「1人」「2人以上」は、出生前の状況である。

4) 3年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5) 夫の家事・育児時間の総数には、家事・育児時間不詳を含む。

資料：「平成17年第4回21世紀成年者縦断調査（国民の生活に関する継続調査）」

統計表
第1表 人口動態総覧の年次推移

年次	出生数	死亡数	自然増加数	死産数	婚姻件数	離婚件数
昭和22年	2 678 792	1 138 238	1 540 554	123 837	934 170	79 551
23	2 681 624	950 610	1 731 014	143 963	953 999	79 032
24	2 696 638	945 444	1 751 194	192 677	842 170	82 575
25	2 337 507	904 876	1 432 631	216 974	715 081	83 689
26	2 137 689	838 998	1 298 691	217 231	671 905	82 331
27	2 005 162	765 068	1 240 094	203 824	676 995	79 021
28	1 868 040	772 547	1 095 493	193 274	682 077	75 255
29	1 769 580	721 491	1 048 089	187 119	697 809	76 759
30	1 730 692	693 523	1 037 169	183 265	714 861	75 267
31	1 665 278	724 460	940 818	179 007	715 934	72 040
32	1 566 713	752 445	814 268	176 353	773 362	71 651
33	1 653 469	684 189	969 280	185 148	826 902	74 004
34	1 626 088	689 959	936 129	181 893	847 135	72 455
35	1 606 041	706 599	899 442	179 281	866 115	69 410
36	1 589 372	695 644	893 728	179 895	890 158	69 323
37	1 618 616	710 265	908 351	177 363	928 341	71 394
38	1 659 521	670 770	988 751	175 424	937 516	69 996
39	1 716 761	673 067	1 043 694	168 046	963 130	72 306
40	1 823 697	700 438	1 123 259	161 617	954 852	77 195
41	1 360 974	670 342	690 632	148 248	940 120	79 432
42	1 935 647	675 006	1 260 641	149 389	953 096	83 478
43	1 871 839	686 555	1 185 284	143 259	956 312	87 327
44	1 889 815	693 787	1 196 028	139 211	984 142	91 280
45	1 934 239	712 962	1 221 277	135 095	1 029 405	95 937
46	2 000 973	684 521	1 316 452	130 920	1 091 229	103 595
47	2 038 682	683 751	1 354 931	125 154	1 099 984	108 382
48	2 091 983	709 416	1 382 567	116 171	1 071 923	111 877
49	2 029 989	710 510	1 319 479	109 738	1 000 455	113 622
50	1 901 440	702 275	1 199 165	101 862	941 628	119 135
51	1 832 617	703 270	1 129 347	101 930	871 543	124 512
52	1 755 100	690 074	1 065 026	95 247	821 029	129 485
53	1 708 643	695 821	1 012 822	87 463	793 257	132 146
54	1 642 580	689 664	952 916	82 311	788 505	135 250
55	1 576 889	722 801	854 088	77 446	774 702	141 689
56	1 529 455	720 262	809 193	79 222	776 531	154 221
57	1 515 392	711 883	803 509	78 107	781 252	163 980
58	1 508 687	740 038	768 649	71 941	762 552	179 150
59	1 489 780	740 247	749 533	72 361	739 991	178 746
60	1 431 577	752 283	679 294	69 009	735 850	166 640
61	1 382 946	750 620	632 326	65 678	710 962	166 054
62	1 346 658	751 172	595 486	63 834	696 173	158 227
63	1 314 006	793 014	520 992	59 636	707 716	153 600
平成元年	1 246 802	788 594	458 208	55 204	708 316	157 811
2	1 221 585	820 305	401 280	53 892	722 138	157 608
3	1 223 245	829 797	393 448	50 510	742 264	168 969
4	1 208 989	856 643	352 346	48 896	754 441	179 191
5	1 188 282	878 532	309 750	45 090	792 658	188 297
6	1 238 328	875 933	362 395	42 962	782 738	195 106
7	1 187 064	922 139	264 925	39 403	791 888	199 016
8	1 206 555	896 211	310 344	39 536	795 080	206 955
9	1 191 665	913 402	278 263	39 546	775 651	222 635
10	1 203 147	936 484	266 663	38 988	784 595	243 183
11	1 177 669	982 031	195 638	38 452	762 028	250 529
12	1 190 547	961 653	228 894	38 393	798 138	264 246
13	1 170 662	970 331	200 331	37 467	799 999	285 911
14	1 153 855	982 379	171 476	36 978	757 331	289 836
15	1 123 610	1 014 951	108 659	35 330	740 191	283 854
16	1 110 721	1 028 602	82 119	34 365	720 417	270 804
17	1 062 530	1 083 796	△ 21 266	31 818	714 265	261 917
18	1 086 000	1 092 000	△ 6 000	31 000	732 000	258 000

注：昭和47年以前は沖縄県を含まない。平成17年までは確定値、平成18年は推計値である。

第2表 人口動態総覧（率）の年次推移

年次 ¹⁾	出生率 (人口千対)	死亡率 (人口千対)	自然増加率 (人口千対)	死産率 (出産千対)	婚姻率 (人口千対)	離婚率 (人口千対)	合計特殊 出生率 ²⁾	年齢調整死亡率 ³⁾ (人口千対)	
								男	女
昭和 22年	34.3	14.6	19.7	44.2	12.0	1.02	4.54	23.6	18.3
23	33.5	11.9	21.6	50.9	11.9	0.99	4.40	19.3	15.4
24	33.0	11.6	21.4	66.7	10.3	1.01	4.32	18.9	15.0
25	28.1	10.9	17.2	84.9	8.6	1.01	3.65	18.6	14.6
26	25.3	9.9	15.4	92.2	7.9	0.97	3.26	16.9	13.4
27	23.4	8.9	14.4	92.3	7.9	0.92	2.98	15.7	12.4
28	21.5	8.9	12.6	93.8	7.8	0.86	2.69	16.4	12.6
29	20.0	8.2	11.9	95.6	7.9	0.87	2.48	15.2	11.3
30	19.4	7.8	11.6	95.8	8.0	0.84	2.37	14.8	11.0
31	18.4	8.0	10.4	97.1	7.9	0.80	2.22	15.6	11.5
32	17.2	8.3	8.9	101.2	8.5	0.79	2.04	16.3	11.8
33	18.0	7.4	10.5	100.7	9.0	0.80	2.11	14.4	10.4
34	17.5	7.4	10.1	100.6	9.1	0.78	2.04	14.4	10.2
35	17.2	7.6	9.6	100.4	9.3	0.74	2.00	14.8	10.4
36	16.9	7.4	9.5	101.7	9.4	0.74	1.96	14.3	10.0
37	17.0	7.5	9.5	98.8	9.8	0.75	1.98	14.6	10.0
38	17.3	7.0	10.3	95.6	9.7	0.73	2.00	13.4	9.3
39	17.7	6.9	10.7	89.2	9.9	0.74	2.05	13.2	9.1
40	18.6	7.1	11.4	81.4	9.7	0.79	2.14	13.7	9.3
41	13.7	6.8	7.0	98.2	9.5	0.80	1.58	12.7	8.7
42	19.4	6.8	12.7	71.6	9.6	0.84	2.23	12.6	8.5
43	18.6	6.8	11.8	71.1	9.5	0.87	2.13	12.5	8.4
44	18.5	6.8	11.7	68.6	9.6	0.89	2.13	12.4	8.2
45	18.8	6.9	11.8	65.3	10.0	0.93	2.13	12.3	8.2
46	19.2	6.6	12.6	61.4	10.5	0.99	2.16	11.5	7.6
47	19.3	6.5	12.8	57.8	10.4	1.02	2.14	11.2	7.4
48	19.4	6.6	12.8	52.6	9.9	1.04	2.14	11.2	7.4
49	18.6	6.5	12.1	51.3	9.1	1.04	2.05	10.9	7.2
50	17.1	6.3	10.8	50.8	8.5	1.07	1.91	10.4	6.9
51	16.3	6.3	10.0	52.7	7.8	1.11	1.85	10.1	6.6
52	15.5	6.1	9.4	51.5	7.2	1.14	1.80	9.6	6.2
53	14.9	6.1	8.8	48.7	6.9	1.15	1.79	9.4	6.0
54	14.2	6.0	8.3	47.7	6.8	1.17	1.77	9.0	5.7
55	13.6	6.2	7.3	46.8	6.7	1.22	1.75	9.2	5.8
56	13.0	6.1	6.9	49.2	6.6	1.32	1.74	8.9	5.6
57	12.8	6.0	6.8	49.0	6.6	1.39	1.77	8.5	5.2
58	12.7	6.2	6.5	45.5	6.4	1.51	1.80	8.6	5.2
59	12.5	6.2	6.3	46.3	6.2	1.50	1.81	8.3	5.0
60	11.9	6.3	5.6	46.0	6.1	1.39	1.76	8.1	4.8
61	11.4	6.2	5.2	45.3	5.9	1.37	1.72	7.8	4.6
62	11.1	6.2	4.9	45.3	5.7	1.30	1.69	7.6	4.4
63	10.8	6.5	4.3	43.4	5.8	1.26	1.66	7.7	4.5
平成 元年	10.2	6.4	3.7	42.4	5.8	1.29	1.57	7.4	4.2
2	10.0	6.7	3.3	42.3	5.9	1.28	1.54	7.5	4.2
3	9.9	6.7	3.2	39.7	6.0	1.37	1.53	7.4	4.1
4	9.8	6.9	2.9	38.9	6.1	1.45	1.50	7.4	4.0
5	9.6	7.1	2.5	36.6	6.4	1.52	1.46	7.3	4.0
6	10.0	7.1	2.9	33.5	6.3	1.57	1.50	7.1	3.8
7	9.6	7.4	2.1	32.1	6.4	1.60	1.42	7.2	3.8
8	9.7	7.2	2.5	31.7	6.4	1.66	1.43	6.8	3.6
9	9.5	7.3	2.2	32.1	6.2	1.78	1.39	6.7	3.5
10	9.6	7.5	2.1	31.4	6.3	1.94	1.38	6.6	3.4
11	9.4	7.8	1.6	31.6	6.1	2.00	1.34	6.7	3.4
12	9.5	7.7	1.8	31.2	6.4	2.10	1.36	6.3	3.2
13	9.3	7.7	1.6	31.0	6.4	2.27	1.33	6.2	3.1
14	9.2	7.8	1.4	31.1	6.0	2.30	1.32	6.0	3.0
15	8.9	8.0	0.9	30.5	5.9	2.25	1.29	6.0	3.0
16	8.8	8.2	0.7	30.0	5.7	2.15	1.29	5.9	3.0
17	8.4	8.6	△ 0.2	29.1	5.7	2.08	1.26	5.9	3.0
18	8.6	8.7	△ 0.0	27.8	5.8	2.04

注：1) 昭和47年以前は沖縄県を含まない。平成17年までは確定値、平成18年は推計値である。
 2) 合計特殊出生率（期間合計特殊出生率）とは、その年次の15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間を生むとしたときの子どもの数に相当する。（実際に1人の女子が一生の間に生む子ども数はコーホート合計特殊出生率である。）
 3) 年齢調整死亡率は、人口構成の異なる集団間での死亡率を比較するために、年齢階級別死亡率を一定の基準人口（昭和60年モデル人口 P5 を参照）にあてはめて算出した指標である。